

平成29年度学校関係者評価委員会報告書（見るべき項目）

世田谷区立深沢中学校(平成30年2月)

1 アンケートごとの評価

I. 生徒のアンケートより

- ・回収率 全学年で306通の回答があった。回収率は91%である。
- ・生徒の教育活動に対する評価「授業の内容はよくわかる。」84%、「学校全体で部活動は充実している。」78%、「友達と学校で活動するのは楽しい」90%「毎日の学校生活が楽しい」77%等と全体的には肯定的回答が否定的回答を上回っている。
- ・「将来の生き方や進路について先生と相談する機会は十分ある」77%、「進路に関する情報を十分提供してくれる。」68%等は、肯定的回答が昨年より数%向上し、わからない率も減少しているが、「先生は誰に対しても公平である。」48%と肯定的回答が激減し、否定的回答が増加した。特に2年生の回答に留意し、一 人一人の話しにしっかり耳を傾け、生徒個々を見ていく努力を希望する。
- ・「自分には良いところがある」58%、わからない率25%となっており、特に2年生は肯定的回答が低い。上記と合わせ、学校行事や地域活動等いろいろな面に目を向け、学習面に限らず何か良いところがあると前向きに考えられるよう働きかけ、肯定的回答75%以上を目指す。
- ・学び舎の活動については、否定的回答が30%と微増しているので、どのように生徒と児童が交流する機会をもたせるかが課題である。

II. 保護者のアンケートより

- ・回収率 全学年で277通の回答があった。今回は336通のアンケートを配布したので、回収率は82.4%、昨年度より若干下がっている。
- ・全体としては肯定的回答が多いものの、各項目で肯定的回答の割合が減少している設問があり、わからない率も増加しているものがある。
- ・キャリア教育、部活動については、今年度格技室や体育館での活動が再開できた割には、数値が大きく改善していない。
- ・学校行事については、高い関心と満足度が顕著に示されている。学校側の課題も理解できるが、なんとか現状を維持してほしい。
- ・通知表評価については、学年で昨年度と比べると2年生だけでなく3年生も肯定的回答が減少し、否定的回答が増加している。
- ・学力や相談のしやすさも合わせ、保護者との信頼関係を築き、理解してもらえよう説明していくことを望む。
- ・地域との連携については、わからない率がほとんどの設問で増加している。どのように理解度を向上させていくかが課題である。

III. 地域の方のアンケートより

- ・回収率 学校協議会委員(出張所、消防、町会長、青少年委員)など51名にアンケートを送付し、30名から回答をいただいた。回収率は58.8%で昨年とほぼ同様である。配布する範囲を若干増やしたが、さらに広げられるかどうか検討が必要である。
- ・わからない率については、ほとんどの項目で増加しており、20%以上の回答が8項目ある。また、地域との連携・広報活動については、他の項目に比べ、まだ肯定的回答が少ないので、さらなる向上を目指してほしい。
- ・校庭も改修工事が終わるので、新校舎と共に活用して、地域の方々に関わっていただく機会を増やしていく必要がある。

2 評価項目ごとの評価

I. 重点目標について

- ・「学校の重点目標が明確である」という評価項目では、肯定的回答が保護者において66%、わからない率22%、地域において93%、教職員において95.6%であり、昨年度より増加しているが、AとBが逆転している。
- ・学校の重点目標について、その目的も含め学校だよりや学年だより等様々な方法で引き続き保護者に周知していく努力をするとともに、教職員内においても共通理解をさらに深めていく必要がある。

II. 地域とともに子どもを育てる教育について

- ・「地域の人材や施設を教育活動に活かしている」の項目では、保護者の肯定的回答が62%で昨年同様。地域の肯定的回答は65%で2%減である。
- ・学校協議会の項目では、保護者の肯定的回答が61%で昨年より2%減少、わからない率も28パーセントと4%増加。地域の肯定的回答は71%で昨年より7%増、わからない率は18%で昨年より11%と大幅に減少している。来年度は内容の見直し・検討とともに、保護者への周知方法の改善を望む。
- ・PTA活動については、活動の見直し・スリム化を行っている中、教職員からは今年度も大変良好な評価を得ている。一部だけに負担が偏ることなく、引き続き保護者の学校への協力体制が継続的に行われることを望む。
- ・学校は地域の活動や行事によく協力しているの項目では、保護者の肯定的回答が72%で昨年より2%減、地域では79%で1%増と昨年同様微減傾向にある。問題が大きくなる前に、学校や生徒と地域との関わり方を見直し、改善に向けて検討することを望む。

III. 未来を担う子どもを育てる教育について

- ・進路指導(キャリア教育)における保護者の評価については、I-Ⅱの3項目を参照。情報伝達方法の工夫を要する。
- ・学習指導において生徒の「授業の内容がよく理解できる」の項目は、84%と数値目標を超えている。さらに維持・向上させていく努力を望む。
- ・教科「日本語」の学校自己評価は、昨年より肯定的評価の割合が減少している。「日本語」についての共通認識をはかるとともに、充実について工夫・改善、指導体制の研修を、引き続き推進していくことを願う。
- ・生活指導においては、保護者・生徒・地域すべてのアンケートで、肯定的回答が昨年度の数値より減少している設問がある。原因を探索すると同時に、学校の生活指導方針や生徒の学校での様子を様々な方法で家庭に伝えていく努力、教職員内で学校のきまりやルール、対応の仕方などの確認と共通理解を図るといった改善が重要である。
- ・道徳教育においては、学校自己評価の中で、各教科等との関連を図った指導について改善され、否定的評価が0になった。
- ・学校行事においては、生徒の自己肯定感が高まるよう、今後も事前・事後の活動・指導を含め、学校の継続的な努力をお願いする。
- ・相談活動においては、一部信頼関係に課題があると思われる。あいあいタイムを継続し、今後も生徒・保護者と学校との信頼関係が修復、保たれていくことを望む。また、保健室・カウンセラーとの連携をさらに強め、教室に行けない生徒たちへの支援をお願いしたい。
- ・部活動において、教育委員会からの部活動休業日指示等、土日の活動も困難を伴うと思われるが、活動の工夫と指導をお願いする。
- ・先生について、「先生に指導されたことは納得できる」は、肯定的回答が79%と微減、「先生は、誰に対しても公平である」の肯定的回答の減少を重視し、教職員と生徒の信頼関係を再構築していくことを願う。

IV. 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

- ・おおむね良好な評価である。
- ・保護者・地域・教職員において全て高い肯定的評価である校長のリーダーシップのもと、教職員が協力して教育活動に励んでいる様子について、保護者や地域にきちんと伝わっていることがうかがえるので、継続してほしい。
- ・来年度は校庭の改修工事が終了し、全面的に新校舎での学校生活が始まる。新しい環境を整えながら、安全指導や安全管理が適切に行われることを望む。

V. 教育環境の整備について

- ・全体的に、訓練や本校施設の安全性について、肯定的回答が増加した。新校舎の安全性について、引き続き保護者や地域へ積極的に情報提供し、周知と理解を徹底してほしい。
- ・各種訓練については、実態に即した内容の見直しを行い、適切に行われることを望む。

Ⅵ. 学校生活全般について

・保護者アンケート「本校の子どもは学校生活が楽しいと感じている」86%、独自項目「友達と学校で活動することは楽しい」90%と、生徒・保護者ともに充足度がかなり高いといえる。
・一方生徒アンケート「毎日の学校生活が楽しい」77%、「深沢中が好きである」75%と肯定的回答がおおよそ10%昨年より減少している。
・生徒の自己肯定感が高められるよう、心の教育を推進していくことを願う。

Ⅶ. 数値目標について

①授業の内容はよく理解できると思う生徒の割合 80%以上を目指す。	＜評価結果	84%
②友達と学校で活動することは楽しいという生徒の割合 85%以上を目指す。	＜評価結果	90%
③生徒が地域の活動や行事によく協力しているという地域方の評価 80%以上を目指す	> 評価結果	79%

・③だけが数値目標を達成できなかった。(昨年度よりは1%向上)
・①、②の継続した指導体制、③の方法整備が望まれる。

Ⅷ. 「学び舎」の目標について

①自分にはよいところがあると思いますか。 75%以上	> 評価結果	58%
②友達と学校で活動することは楽しい。 75%以上	＜評価結果	90%
③自分が住んでいる地域は好きである。 75%以上	＜評価結果	81%

・学び舎で設定した数値目標の結果「①の自分にはよいところがあると思いますか。」は発達段階を考慮しても低い値であり、次年度への課題である。この報告書でも何度もふれているが、生徒が自己肯定感を高められるよう、学習面だけでなく、学校行事や部活動、地域行事などいろいろな場面で活躍できる機会を作り、生徒が前向きになれる指導を強く願う。

3 学校自己評価について

Ⅰ. 学校自己評価の方法は適切であるか

・適切に実施されたといえる。

Ⅱ. 学校自己評価の結果の内容は適切であるか

・おおむね適切な内容といえる。
・しかしながら、多数の肯定的評価で昨年度と比べAよりBが増加している。原因を調べ改善していくことを望む。

Ⅲ. 学校自己評価の結果を踏まえた改善方策は適当であるか

もう一歩踏み込んだ分析がなされるとより具体的な改善方策がたてられると思われる。今年度は学年での問題もあっただけに、学年別・担当部門別の検討も記録し、次年度へつなげていただきたい。保護者や地域からの希望や認識とのズレについて、理解を得られるよう説明する機会を作ることをお願いしたい。

4 学校の課題及び学校への提言

○アンケート集計結果より、全体的には今年度も良い評価結果である。今後も継続努力し、さらなる向上を目指(推進)していくこと。
○地域との連携においては、協力関係を強め、生徒が地域の一員として自覚を持って活躍できるよう取り組み方法を改善し、状況を保護者や地域へタイムリーに発信していく努力を行うこと。
○情報発信に関し、学校だよりや学年だより等の効果は高い。ホームページに関しては、まずアクセスしてもらいやすい工夫をし、情報発信のツールとして活用できるようにさらなる改善を行っていくこと。
○学習指導において、おおむね良好な評価を得ているが、否定的回答の増加がみられる。アンケートの実施・分析を通し、高い水準が維持できるよう改善努力を行っていくこと。
○教科「日本語」においては、今後も共通理解をもち、研修等を通して指導の工夫・改善を強力に推し進めさらなる充実を図っていくこと。
○生活指導においては、職員の入れ替わりを考慮し、指導方針や指導内容を明確化して、「安全・安心な学校」を目指して一致した指導体制を今後も推進し、課題解決に向けて努力していくこと。
○学校行事においては、今年度も生徒・保護者の満足度は高い。引き続き授業(学習)も大切であるが、生徒に主体的な活動ができるよう促し、よりよい行事となることを目指すこと。
○相談活動においては、保健室・スクールカウンセラーと連携し、今後も生徒の心の変化を捉え、早期に対応する体制を進め、常に生徒が安心して学校生活を過ごせるようにしていくこと。
○進路指導においては、キャリア教育(進路指導)＝進学指導でなく、生徒一人一人が将来にわたり職業人として生きていく力を身に付けていく指導であることを、今後も生徒・保護者に様々な機会をとらえて広報・周知していくこと。また、進路の情報提供にあたっては、保護者のニーズにできるだけ応えていく努力をすること。
○部活動等においては、工夫しながら今後も3年間を通した生徒活動の充実を行うこと。
○学校の安全性、安全への配慮等は、さらに向上できるよう課題に取り組む。今後も保護者へ様々な機会をとらえて積極的にアピールしていくこと。
○大規模災害の対応について、学校ができること、各家庭がやらなければならないことを明確にし、保護者や地域に周知理解をさらに深めていくこと。
○一人一人の生徒が、学び舎の教育目標にある「自分大好き」と思えるように、校長の学校経営方針にある、「夢」を生徒に持たせ、自己実現ができる機会を設定・実践し、自己有用感、自己肯定感等を味わう経験を多く持たせるよう、改善・努力を行っていくこと。

5 総合所見

保護者アンケート・生徒アンケート・地域アンケート及び学校自己評価の実施、集計、分析とも適正に行われたといえる。
重点目標の数値を3項目中2項目達成したことは、学校の努力の成果であるといえる。重点目標についての周知、地域との連携についての課題については、生徒の自己肯定感向上にもつながるため、来年度も重要なポイントと思われる。厳しい授業時間の中、学校行事に対する生徒の満足度を高いまま維持し、「学校生活を楽しく過ごしている」とする結果が保護者89%、「友達と学校で活動することが楽しい」生徒90%と高い肯定的評価を得られたことは大変評価できる。
回収率を含め、高い水準を維持できたのは、校長が強力にリーダーシップを発揮し、教職員が一体となって努力してきた結果であるといえる。学校と生徒・保護者との信頼関係を深め、今後も校長のリーダーシップのもと教職員が一体となり一人一人の生徒のために最善を尽くしていくことを願う。

平成29年度 世田谷区立深沢中学校 学校関係者評価委員会			
委員長	井坂 聡		
委員	青柳 義博	(事務局)	
	菅田 輝代志		新妻 弘樹
	武田 泰子		佐藤 哲
	谷岡 美貴		山口 拓也
	島田 達彦		佐藤 巧